

暮らしのなかに読書を。

読書習慣を身に付けて
暮らしを豊かに

読書は語彙力や知識の向上に加え、日々のストレス解消にも効果を発揮します。また、読書を通じて取り入れることで、人の気持ちを理解する力を育むことにも繋がります。読書は、子供が他人を思いやりたり、感性や表現力を高め、人生をより深く生きる力を身に付けていくうえで欠くことのできないものです。

読書を習慣化することは、年齢を問わず暮らしを豊かにすることに繋がります。しかし、全国的に1カ月に一冊も本を読まない人は全体の約半数を占め、以前に比べ読書量が減ったと答えた人は年々増加傾向にあります。本市でも、図書館の入館者数・貸出冊数は共に減少傾向にあり、市民の皆さんが少しでも読書に親しみのある生活を送れるよう、様々な図書館サービスの充実に努めています。

今回の特集では、皆さんが読書習慣を身に付ける際のヒントとなるよう、専門家や図書館職員の話を変えながら、暮らしのなかに読書を取り入れる方法やポイントを紹介いたします。



専門家インタビュー 読書をたのしく 習慣づける。

読書習慣は、子供の成長において重要な役割を果たします。子供に読書を楽しませる方法や心がけについて、15年以上本市で読み聞かせや読書活動に携わっている「ぬまづ子どもの本を学ぶ会」の村上慶子さんにお話を伺いました。

読書習慣を身に付けるうえで
最も大切なことは何ですか

子供自身が「本を読むって楽しい。もっと読みたい」と主体的に思うことが、読書習慣を身に付けるうえで何よりも大切です。そのためには、ただ子供に読書を促すだけでなく、早い段階から読書に触れさせることや、読書の楽しさが伝わるように、読み聞かせの仕方を工夫することが必要です。

いつから読書を
始めれば良いですか

読書の楽しさを知るために、できるだけ早い頃から読書を始めましょう。読み聞かせを始めるのは、生後7カ月ぐらいからが良いと思いますが、ぜひ生まれたばかりの0カ月から「語り聞かせ」という形で読書をさせてあげて下さい。毎日抱っこして、目を見て語りかけることで子供は楽しさと一緒に安心感を覚え、成長に合せて絵本の読み聞かせを始めましょう。

読み聞かせの際も、登場人物をよく理解し、感情を込めて読む等、子供が読書を楽しめるように工夫しましょう。

絵本を選ぶ際の
ポイントを教えてください

絵本は図書館で借りるといいですね。子供がお気に入りの一冊と出逢ったら、その本を買ってあげましょう。

絵本にはストーリーを楽しむ物語絵本と知識を得るための知育絵本があります。物語絵本を選ぶ際は、日本昔話のような、シンプルなものやハッピーエンドのものを選ぶようにしましょう。時には子供にとって想像力が必要な絵本も大切ですが、一緒に楽しむことを目的としている間は、読み終わった後に笑顔になれる本が良いと思います。

知育絵本を選ぶ際は、暮らしと結びつけることのできる絵本がおすすめてです。例えば、果物がカットしてある状態と実っている状態の両方の挿絵がある絵本を読むことで、自分の暮らしと結びつけながら知識を得ることが出来ます。

親が読書をするうえで
心掛けることは何ですか

親の読書習慣は子供にも大きく影響します。ですから、大人にこそ読書をして欲しいと思います。自分が読みやすいと思うもので良いので、図書館で子供の本を借りるついでに、自分の興味の本を探るところから始めてみましょう。親子で読書を楽しむことは、子供が自然と読書習慣を身に付ける近道になります。



読書の大切さについて笑顔で話す村上慶子さん

「お家で」 読み聞かせ！村上さんおすすめの3つのポイント

Point 1



子供を自身の膝の上に乗せて、包み込むような形で行いましょう。

Point 2



しっかり挿絵を見せて、作中の世界観をイメージさせてあげましょう。

Point 3



登場人物をよく理解して、感情を込めて読みましょう。